国指定史跡真壁城跡　発掘調査現地説明会資料

令和５年11月18日（土）

令和５年度　真壁城跡中城（なかじょう）庭園の調査

ー２期にわたる庭園の変遷が明らかにー

主催　桜川市教育委員会

調査の要旨

真壁城跡は平成６年(1994)10月28日に国史跡に指定され、平成９年（1997)に遺構の保護や史跡整備のための調査を開始し、二の丸・中城・外曲輪（そとぐるわ）で調査を実施。現在は中城庭園の全体像の解明を目指して、中城地区中央部を掘り下げて補足調査を行っている。

今年度の主な成果として３つのことが挙げられる。

トピック１：ぬかりない排水設備たち

トピック２：北池の範囲が確定！

トピック３：園路の造り方が判明！

昨年度までの調査で、17代久幹（ひさもと）が庭園の基礎を造り上げ、代替わり後の18代氏幹（うじもと）がそれを基盤とし当時の流行を取り入れて庭園の大改造を行った事が分かってきた。今回の調査で判明した遺構の年代は庭園の全容や変遷（へんせん）をたどる上で重要な発見である。

●庭園内の出土遺物

計10万点を超える土器・陶磁器などの破片が出土しそのほとんどが酒杯(かわらけ)。今年度出土したものは、茶道具（中国景徳鎮（けいとくちん）産染付磁器、瀬戸美濃産天目茶碗、静岡県初山（はつざん）産鉄釉皿）、雨覆（あまおい）(火縄銃の部品)、キセル（近世）などがある。

トピック１：ぬかりない排水設備たち

①竪穴状遺構

東西5m、南北7mの方形の窪み。遺構内に柵列が検出されている。役割としては、侵入を阻害するための障害物だったと令和元・３年度調査では想定していた。

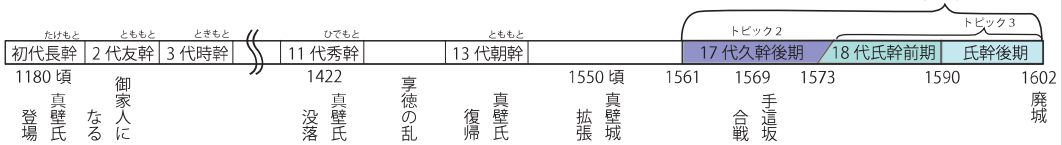
今回の調査で、竪穴状遺構の複雑な形状、時期の変遷、役割が明らかとなった。方形の窪みの南側に溝が２本接続し、東側にＬ字状の溝が１本接続する形は久幹後期に形成された。

代替わり(氏幹前期)に伴い、南側の１本と東側の１本は埋め立てられ、方形の窪みは範囲を縮小して造り変えられた。

氏幹後期には全て埋め立てられてしまうものの、溝が様々な方向から接続されていることから排水設備の役割があったと考えられる。

▲竪穴状遺構

▲埋め立てられた溝の様子

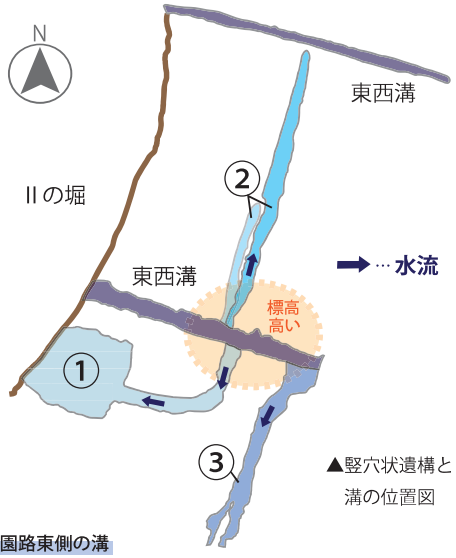


トピック１：ぬかりない排水設備たち

②南北溝

久幹後期以前から使用された溝が代替わり(氏幹前期)に伴い埋め立てられ、かさ上げ造成後にも同じ場所に再度造られた。同時に庭園と続く園路が整備されたと考えられ、溝は園路や平場が雨水により水浸しにならないよう設置された排水設備の役割があったと考えられる。

溝の北側の東西溝の周辺で、火縄銃の部品である「雨覆」が出土した。現在調査中であり、戦国時代のものとは限らない。



▲竪穴状遺構と溝の位置図

③園路東側の溝

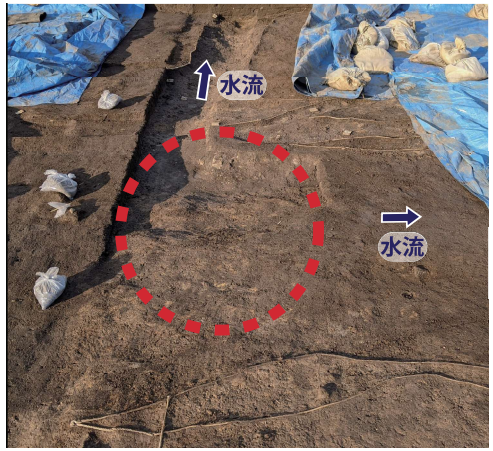
東西溝から溢れた水を南側に流すために設けられた溝で、久幹後期に造られた。これも代替わりに伴い埋め立てられ、庭園の大改造により不要になった石も多量に埋立てに使用された。ただし、東西溝から離れた所に溝が造り直され、以後近世まで使用していたことが明らかになった。

トピック２：北池の範囲が確定！

ー北池ー

令和４年度までの調査で、東側と薬研堀状の水路などの付属施設部分の関係性と代替わり後は北池の規模が縮小することが明らかとなっている。

今年度の調査で久幹後期の北池の西側の形状が判明し、この時期の北池の形が確定した。



▲北池の底の様子

▲北池の底の形(畦状になっている)

久幹後期に造られた北池は、北あるいは東に向かって緩やかに傾斜し、途中凸凹状の畦（あぜ）のようになっている。

これは、水の流れを緩やかにするための構造と考えられ、周辺の排水を一手に担っていたと考えられる。

代替わり(氏幹前期)に伴い、この部分は埋め立てられた。

トピック３：園路の造り方が判明！

北池にある建物(茶室)に続く園路で、長さ約81m、幅約２mある。今回の調査で園路の造り方が分かり、城道との違いが明らかとなった。

【園路と城道（じょうどう）の構造の違い】

●園路：庭園の中をめぐる道路

10cmほど掘り窪めた後、底面を突き固める。砂利と砂を敷き詰めてさらに固めて造られた。

●城道：城郭の中をめぐる道路

片側もしくは両側に溝が設けられている。水はけを考慮して、かまぼこ状に道の中央部を高くして造られた。

▲園路の断面図

▲園路を突き固めた痕跡

V-Ⅱ期

- 真壁久幹
- 永禄～元亀年間
（1560前後～1573）

庭園の特徴

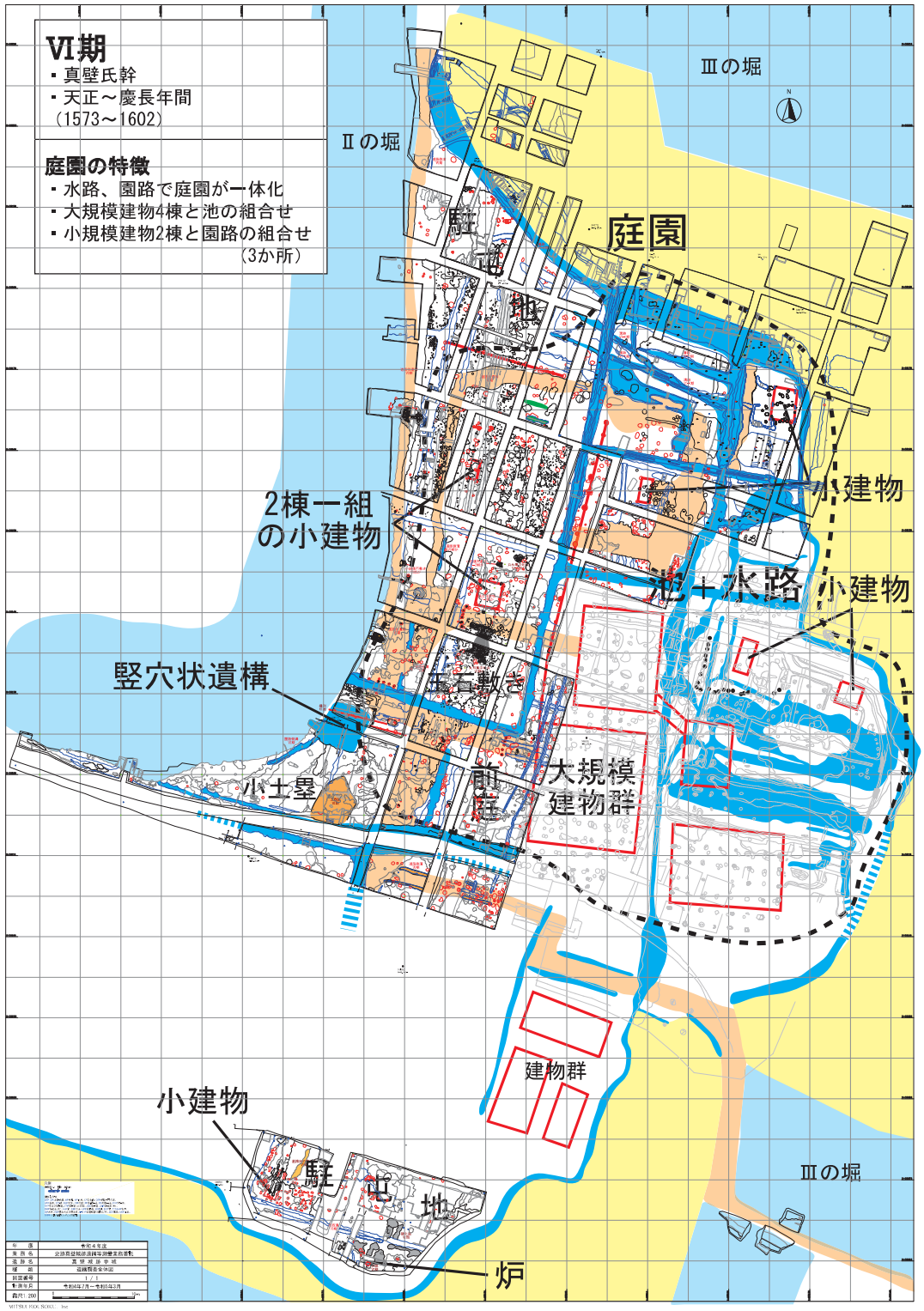
- 小規模庭園が点在（3か所）
- 小規模建物+池+飛び石の組合せ

その他

- 排水や区画の溝
- 竪穴状遺構, 井戸

Ⅵ期

- 真壁氏幹
- 天正～慶長年間
（1573～1602）

庭園の特徴

- 水路、園路で庭園が一体化
- 大規模建物4棟と池の組合せ
- 小規模建物2棟と園路の組合せ（3か所）